

第61回徳島県高校総合体育大会(県高体連、県教委主催、徳島新聞社など後援)第3日は6日、各地で24競技が行われ、8競技で優勝校が決まった。新体操女子は生光学園が7年ぶり7度目の栄冠に輝いた。空手道は男子の小松島西が3年連続8度目、女子の徳島北が2年連続3度目のV。ソフトボール男子は徳島科技が6年連続9度目、女子は池田辻が4年連続4度目の優勝を果たした。相撲は名西が5連覇して優勝回数を15に伸ばし、

第61回
県高校総体
 第3日

ホッケー男子は阿南光が2年連続2度目の制覇。ライフル射撃の男子総合は小松島が2年連続8度目の王座に就いた。体操はそれぞれ1校が出場し、男子は小松島が2連覇、女子は徳島市立が初優勝した。水泳の学校対抗は男子の徳島市立が14年連続27度目、女子は徳島市立が4年ぶり26度目の頂点に立った。陸上男子100mでは久保井颯(鳴門渦潮)が従来の県記録を0秒04上回る10秒43で制した。最終日の7日は13競技が行われる。

生光学園 7年ぶり優勝



笑顔で息の合った演技を見せる生光学園の選手—小松島高(山田旬撮影)

情熱を表した赤が基調の衣装を身にまとった生光学園の5人は、支えてくれる人々への感謝を胸に13四方のマットで、投げて、受けて、跳んでと躍動感あふれる演技を披露した。2分30秒に全てをぶつけ、覇権を奪還した飯田主将は「出来は80点くらいだけど、まず勝てたことがうれしい」と素直に喜んだ。

6連覇を狙う富岡西を0.15点差で抑えた。その要因となったのが、3チーム中で最高の17.10点をマークした難度点。難しい見せ場で重要な役割を果たしたのが、2年生の林だ。仲間が投げたフープやクラブは予定の落下点と微妙に異なることもあったが、瞬時の判断でキャッチし「演技の流れを戻せた」と話す。優勝の喜びを分かち合いながらも、飯田主将は「まだまだの部分も多い」と反省も示さない。

生光学園一筋に指導歴35年の佐近監督は「富岡西の存在は大きい。切磋琢磨(せつさたくま)して、うちの選手も伸びることができる」とライバルに敬意を表す。部旗には「絆」の文字が記されている。「コロナ禍の影響で戦わずに終わった昨年の選手らも大会運営に携わった。飯田主将は「大勢の人の絆でここまで来られた」と感謝し「全国大会に向けて技の正確性を高め、悔いのない演技で恩返ししたい」と表情を引き締めた。(山口隆弘)

新体操
 (小松島高が)
 【男子】個人総合①大塚生20.90点(ロープ)10.25点(クラブ)10.65点(難)15.10点(中)16.80点(種目別)ロープの森野香11.25点(大)10.25点(中)9.95点(小)の大塚生10.65点(難)7.85点(中)7.45点

感謝胸に躍動 覇権奪還
 非難はいずれも小松島
 【女子】団体①生光学園(飯田主将)17.80点
 ②智蔵部 ③豊井林 ④後藤22
 【個人総合】林朋奈(生光学園)29.35点(ロープ)15.75点
 ②リボン①富岡西②75.50徳島市
 ③リボン①富岡西②60.00貴州(富岡西)③15.75今津(富岡西)15.27
 ④飯田主将(生光学園)26.30
 ⑤リボン①林朋奈(生光学園)13.60(富岡西)12.80
 ⑥飯田主将(生光学園)12.45
 ⑦林(生光学園)80.00飯田主将(生光学園)45.00